

## 第1回エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム

### 「アジア研究の過去・現在・未来」全記録（I）

主催 愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）  
共催 中日新聞社、ハーバード大学日米関係プログラム、ハーバード大学アジアセンター  
後援 公益財団法人愛知大学教育研究支援財団、愛知大学同窓会  
日時 2023年7月1日（土）13:00～17:00  
会場 愛知大学名古屋キャンパス・グローバルコンベンションホール  
オンライン配信：ZOOM ビデオウェビナー  
使用言語 英語・日本語（同時通訳付き）

#### プログラム

##### 第一部 開会式と記念講演（13:00～14:20）

開会の挨拶 川井伸一（愛知大学理事長・学長）  
趣旨説明 李春利（愛知大学国際中国研究センター所長・大学院長）  
シャーロット・アイケルズ教授（ヴォーゲル夫人）のビデオメッセージ

記念講演：クリスティーナ・L・デイビス

（ハーバード大学日米関係プログラム所長・ICCS 顧問）

演 題：「エズラ・ヴォーゲル博士の回想—アジア研究の継承と発展—」

##### 第二部 パネルディスカッション（国際研究機構との合同プログラム）（14:20～17:00）

テーマ： 「アジア研究の過去・現在・未来」

パネリスト：クリスティーナ・L・デイビス（ハーバード大学日米関係プログラム所長）

ジェームズ・ロブソン（ハーバード大学アジアセンター所長）

リチャード・ダイク（ハーバード大学アジアセンター顧問）

今井耕介（ハーバード大学教授）

趙全勝（アメリカン大学教授）

益尾知佐子（九州大学教授）

共同モデレーター：李春利／佐藤元彦（愛知大学国際研究機構長）

・冒頭発言：リチャード・ダイク／今井耕介／趙全勝／益尾知佐子／クリスティーナ・L・デイビス／ジェームズ・ロブソン

- ・一般討論&質疑応答
- ・総括 佐藤元彦
- ・全体講評&閉会の挨拶 鈴木孝昌（中日新聞社取締役）<sup>1</sup>

## 第一部 開会式と記念講演

### 田中英式（愛知大学経営学部教授、総合司会）

これより第1回「エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム「アジア研究の過去・現在・未来」を開催したいと思います。私は本日の全体の進行を担当させていただきます、愛知大学ICCSの田中と申します。よろしくお願ひいたします。

本日のこのフォーラムは中日新聞社様、それからハーバード大学日米関係プログラム様、ハーバード大学アジアセンター様との共催ということになっております。また、愛知大学教育研究支援財団様、それから、愛知大学同窓会様の後援を受けております。ここにお礼申し上げます。

それでは、まずは愛知大学学長の川井伸一先生より開会のご挨拶を頂きたいと思ひます。川井先生、よろしくお願ひいたします。

### 第1回エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム 開会の挨拶

#### 川井伸一（愛知大学理事長・学長）

皆さま、こんにちは。私は愛知大学学長の川井でございます。本日は、皆さまには、本学国際中国学研究センター(以下、ICCS)主催の第1回「エズラ・ヴォーゲル記念フォーラムアジア研究の過去・現在・未来」にご参加いただき、ありがとうございます。

このエズラ・ヴォーゲル記念フォーラムの説明については、後で詳しいご説明がありますが、このフォーラムは、本学の「特別重点研究助成」に採択された研究プロジェクトであります。それは、これまでの本学とハーバード大学名誉教授故エズラ・ヴォーゲル先生との交流の経緯をふまえて、ヴォーゲル先生の現代東アジア地域研究の成果と意義の再検証を通じて、現代東アジア地域研究の課題を明らかにすることを目的としたものです。この研究プロジェクトは本年度から3年間を予定しており、今回はその最初のフォーラムです。

---

<sup>1</sup> クリスティーナ・デイビス（Christina Davis）、ジェームズ・ロブソン（James Robson）、リチャード・ダイク（Richard Dyck）、趙全勝（Zhao Quansheng）各氏の講演および発言は英語で行われたため、日本語への翻訳は李春利氏、校閲は石田卓生氏が担当した。シャーロット・アイケルズ教授（Charlotte Ikels、エズラ・ヴォーゲル夫人）のビデオメッセージ「エズラ・ヴォーゲルの蔵書が愛知大学にやってきたーシャーロット・アイケルズさんからのメッセージ」の原文は英語であり、日本語への翻訳は李春利氏、校閲はウィリアム・ブルックス氏（William Brooks）、川端朋広氏が担当した。本特集へのご協力には厚く御礼を申し上げます。

本日は、ヴォーゲル先生から直接指導を受けられるなど、先生の身近で活動されたご経験をお持ちの6名の研究者をスピーカーとしてお招きしました。お忙しい中、フォーラムご参加いただいたスピーカーの方々には、本学を代表して御礼を申し上げます。

ヴォーゲル先生は2019年11月に本学を訪れ、「永遠の隣人:日中の歴史から考えるアジアの未来」と題して、日本と中国の間の学びの交流の歴史について講演されました。これは、結果的に先生の日本における最後の講演になりました。昨年、ヴォーゲル先生のご家族から、ご自宅に所蔵の多くの書物、これは先生が参考にされた中国語、日本語、英語の書物を本学に寄贈いただくこととなりました。大変有難く、感謝しております。

ヴォーゲル先生は、日本研究、中国研究、東アジア地域研究、東アジアの国際関係など幅広い地域を対象に、また政治、経済、社会、文化などを多面的、総合的に研究され、多数の優れた業績を残されたことはよく知られています。ヴォーゲル先生はそれぞれの地域を対象に研究するにあたり、地域の関係する多くの人々に現地の言葉で直接インタビューをして、その際に詳細な多量の記録ノートを取られたことも知られています。地域研究の方法として、現地につき、現地の言葉で、現地の多くの人と親しく交流すること、ただし、その分析方法は先生の独自の視点をもっている。地域研究の一つのモデルを示しているように思います。

以上、長くなりましたが、本日のフォーラムがご参加の皆さまにとって有意義なものになりますよう、最後までお付き合いいただければ幸いです。ありがとうございます。

田中：川井先生、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、本学国際中国学研究センター（ICCS）所長の李春利先生より、本日のシンポジウムの趣旨についてご説明いただきたいと思います。それでは李先生、お願いいたします。

## 第1回エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム 「アジア研究の過去・現在・未来」 趣旨説明

李春利（愛知大学国際中国学研究センター所長）

ただいまご紹介にあずかりました、愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）所長の李春利と申します。今日は雨の中、大勢の皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございます。今回のシンポジウムは、同時にオンラインのライブ中継もやっております。



事務局によると、会場の申込者数は280数名、オンライン参加の申込者数も約250名であり、合わせて約530名の方が今日の私どものイベントにご参加いただいていると聞いております。とりわけ遠方よりゲストスピーカー6名、なかでもアメリカからは5名の先生方にご出席いただいております。遠方より友が大勢来られたことを、心より歓迎いたします。

#### 愛知大学特別重点研究 「エズラ・ヴォーゲル東アジア地域研究の継承と検証」

今日は、第1回「エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム」と題して開催しておりますが、実は、これは3年間にわたる愛知大学特別重点研究助成「エズラ・ヴォーゲル東アジア地域研究の継承と検証」（研究代表者：李春利、2023年度～2025年度）の最初のイベントになります。

その流れを少しご紹介いたしますと、実は今から3年半前、2019年11月23日に、まさにこの壇上でエズラ・ヴォーゲル先生をお迎えして、愛知大学「中国公開講座」においてご講演を頂きました。その前日に、先生は東京の国際文化会館でイベントがありましたので、私が東京に行って、先生をお迎えしてここに来たのです。非常に過密な日程の中で愛知大学にお越しになり、ご講演を頂きました。日帰りだったのですが、奇しくも、これはヴォーゲル先生が生前、日本で行った最後の講演となりました。

#### 『エズラ・ヴォーゲル 最後の授業—永遠の隣人—』

愛知大学は、有名な講演の場合は講演録を作成することにしており、最初はブックレットの形で先生の講演録を作る予定だったのですが、皆さんご存じのように、その直後に、つまり2020年1月頃からコロナが始まってしまいました。われわれもオンライン授業の準

備に追われて、結局、出版が遅れてしまいました。さらに、そのような中、2020年12月20日にヴォーゲル先生が他界されてしまいました。

その翌年の2021年8月に、ICCS特別記念出版として上梓されたのが『エズラ・ヴォーゲル 最後の授業—永遠の隣人—』<sup>2</sup>と題した本です。これはブックレットではなく、アマゾンでも扱われる一般書籍です。しかし、この本を先生にご覧になっていただくことはできませんでした。

### ヴォーゲル蔵書約3,100冊の寄贈

2022年10月にハーバード大学アジアセンター主催のエズラ・ヴォーゲル記念シンポジウムが開催され、今日のゲストスピーカーの1人であるジェームズ・ロブソン所長にお招きいただいて私も出席いたしました。

その際、ヴォーゲル夫人のシャーロット・アイケルズ教授から、ヴォーゲル先生の蔵書約3,100冊を愛知大学にご寄贈くださるという大変ありがたいお申し出がございました。今日の配布資料の最後に、今回の寄贈に関する新聞記事があります。本日の共催者である中日新聞様には、今年の5月25日付けで大々的に報道していただきました。

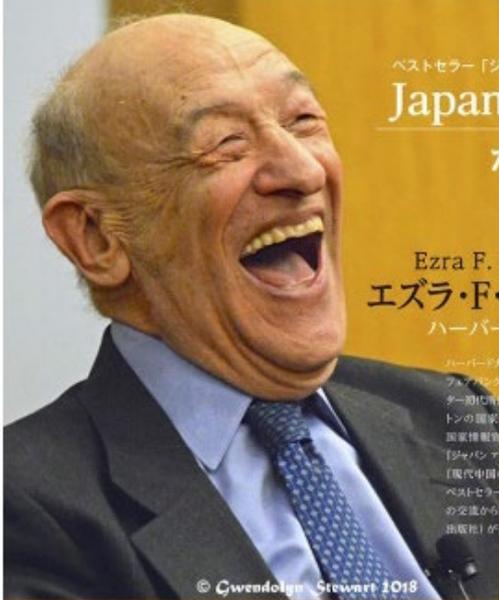
私はヴォーゲル先生のご自宅を訪ね、この本を先生の霊前にささげ、さらに、蔵書寄贈のお申し出を日本に持ち帰ってまいりました。川井伸一学長への報告と学内の機関決定のプロセスを経て、川井学長からはヴォーゲル夫人宛てに、「愛知大学として大変ありがたく、蔵書を全部お引き受けいたします」という書簡をお送りしました。

そういった流れの中で、「エズラ・ヴォーゲル東アジア地域研究の継承と検証」という愛知大学特別重点研究プロジェクトが発足し、今日の第1回「エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム」の開催にこぎ付けたのです。

### 貴重な写真の数々

これは、ヴォーゲル先生が愛知大学に講演に来られた時のポスターです。このポスターに使われた写真は、ヴォーゲル先生に特別にお送りいただいたもので、『エズラ・ヴォーゲル 最後の授業—永遠の隣人—』の表紙にも使わせていただきました。この一枚は、ヴォーゲル先生が愛知大学に来られた際、講演に先立って開催された「エズラ・ヴォーゲル先生を囲むランチ交流会」での集合写真です。真ん中はヴォーゲル先生で、隣は川井学長です。ここに写る方々は、まさにこのホールで先生のご講演を聴いたのです。

<sup>2</sup> エズラ・F・ヴォーゲル、李春利 著『エズラ・ヴォーゲル 最後の授業—永遠の隣人—』（愛知大学国際中国学研究センター特別記念出版）、あるむ、2021年。(Ezra F. Vogel and Chunli Li, *The Last Lecture: Ezra Vogel on China and Japan, A Special Commemorative Publication*, International Center for Chinese Studies, Aichi University, ARM, 2021.)



ベストセラー「ジャパニアスナバーワン」  
**Japan as No.1**  
 から40年

Ezra F. Vogel / 傅高義  
**エズラ・F・ヴォーゲル氏**  
 ハーバード大学 名誉教授

ハーバード大学社会学博士  
 フォアマン・チャイナ研究センター所長、アジアセン  
 ター副学長などを歴任。93年-95年、ワシ  
 ントンの国家情報会議(NIC)東アジア担当の  
 国家情報官に就任。  
 『ジャパニアスナバーワン』(1979年)が日本で、  
 『現代中国の父 鄧小平』(2013年)が中国で  
 ベストセラーに。11月に『日中関係史：1500年  
 の交流から読むアジアの未来』(日本経済新聞  
 出版社)が刊行される。

© Gwendolyn Stewart 2018

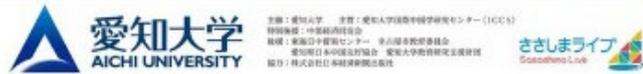
愛知大学中国公開講座⑩ 2019 特別編  
**「永遠の隣人：  
 日中の歴史から考えるアジアの未来」**  
 “China and Japan: Learning from Each Other”

聴講無料 要申込  
 定員 500名  
定員を超えた場合は抽選となります。

◎司会 李 春利 / Chunli Li 愛知大学経済学部教授・愛知大学国際中国学研究中心(ICCS) 運営委員

2019年11月23日(土・祝) 12:20 ~ 13:50 (開場 / 12:00) ※当日は入場券はございません。  
 愛知大学 名古屋キャンパス グローバルコンベンションホール 名古屋市中区平池町 4-60-6  
 ささしまライブ

(参加申込方法) 愛知大学公式サイト、もしくはハガキに必要事項をご記入の上、11月13日(水)までにお申込みください。詳細は裏面をご参照ください。





この一枚は、昨年、私がヴォーゲル先生のご自宅を訪ねたときに撮ってきた写真です。ヴォーゲル先生と中曽根康弘元首相の写真ですが、二人は非常にいい表情をしています。この写真は、蔵書をお引き取りする前のヴォーゲル先生の書斎と書庫の風景です。当時は、今日、ご講演いただきリチャード・ダイク先生と一緒にご自宅にお邪魔し、ヴォーゲル夫人のシャーロット・アイケルズ先生にご案内いただきました。これらの蔵書はすでに引き取り作業が終わり、今は通関手続きの準備をしているところです。通関手続きは思ったよりはるかに複雑でしたので、蔵書は、今年の秋頃に日本に船便で運ばれてくる予定です。

## 『胡耀邦』に関する遺稿の発見

「愛知大学が引き取る準備としてここを掃除したところ、驚くべきことに、ここにある書類の山を整理していたら、まさにこの棚に『胡耀邦』に関する彼の本の草稿を発見しました。この未発表の原稿は2015年に書かれたものです。彼は、それを手もとに置いたまま『日中関係史』の本を執筆していたのです。この本を書き終えたら、彼は『胡耀邦』の執筆を再開させるつもりでした。そして、彼は同時に自伝も執筆していました。私たちは彼のデジタルファイルの中から、その断片を探しているところです。数週間後に彼のデジタルファイルに索引をつける人が来るので、うまくいけば、より新しい『胡耀邦』に関する原稿ファイルが見つかり、大きなプロジェクトが実際に結実するかもしれませんが、はっきりとはわかりません。」



実は、この蔵書のご寄贈に関わる作業の中で大きな出来事がありました。そのことについては、この後のビデオメッセージ「エズラ・ヴォーゲルの蔵書が愛知大学にやってきた—シャーロット・アイケルズさんからのメッセージ」の中で、彼女が次のように説明されています。

愛知大学が引き取る準備としてここを掃除したところ、驚くべきことに、ここにある書類の山を整理していたら、まさにこの棚に『胡耀邦』に関する彼の本の草稿を発見しました。この未発表の原稿は2015年に書かれたものです。彼は、それを手もとに置いたまま『日中関係史』の本を執筆していたのです。この本を書き終えたら、彼は『胡耀邦』の執筆を再開させるつもりでした。そして、彼は同時に自伝も執筆していました。私たちは彼のデジタルファイルの中から、その断片を探しているところです。数週間後に彼のデジタルファイルに索引をつける人が来るので、うまくいけば、より新しい『胡耀邦』に関する原稿ファイルが見つかり、大きなプロジェクトが実際に結実するかもしれませんが、はっきりとはわかりません。

01

「エズラ・ヴォーゲルの蔵書  
が愛知大学にやってきた」

02

～シャーロット・アイケルズ  
さんのメッセージ～

03

(エズラ・ヴォーゲル夫人の  
メッセージより抜粋)



「エズラは、2019年に2つのプロジェクトを同時並行して進めていました。ひとつは『胡耀邦』に関する書籍の執筆を再開しようとしていたこと、もう一つは自伝の執筆です。しかし、彼は（大統領）選挙が迫る中で米中関係が悪化している状況を非常に懸念しており、それらの執筆をすべて一時休止したのです。彼は、ハーバード・ケネディ・スクールのグラハム・アリソン（Graham T. Allison）と協力しつつ米中関係の好転を目指す観点から、次期政権に対する政策提言を作成しはじめました。彼はそのため多くの執筆業務を休止していたのですが、残念ながら早すぎる死によってそれらを完成させることはできませんでした。」

ちなみに、この写真の小さな祭壇上の箱には先生のご遺灰が納められています。私は『エズラ・ヴォーゲル 最後の授業—永遠の隣人—』を、その先生のご霊前にささげました。

### ヴォーゲル・ファミリー

#### 特集「A Bridge Builder～エズラ・ヴォーゲルの生涯～」(YouTube, 34分)

国際交流基金とNHKエデュケーショナル制作,ヴォーゲル先生の愛知大学講演の動画(愛知大学YouTubeチャンネルより視聴可能)を引用, 国際交流基金HPに掲載



この写真は先ほどご紹介しましたハーバード大学アジアセンター主催のエズラ・ヴォーゲル記念シンポジウムの様子です。右側の写真には左からジェームズ・ロブソン先生、シャーロット・アイケルズ先生、リチャード・ダイク先生が写っています。私も右端に座つ

ております。そして、左側の写真はヴォーゲル先生のご令息のスティーヴン・ヴォーゲル先生と、これから記念講演をしていただくクリスティーナ・デイビス先生です。

昨年のハーバード大学でのヴォーゲル記念シンポジウムの参加者の中の4人が、本日、名古屋のこのコンベンションホールに集まり、再会することができました。

そして、ご寄贈いただいた書籍の整理登録作業を終えましたら、ヴォーゲル夫人とスティーヴン・ヴォーゲル先生を愛知大学にお招きし、先生の蔵書を見ていただき、ご講演をいただこうと計画しております。

最後にもう一つ、先ほど上映したビデオは、国際交流基金とNHKエデュケーショナル社が制作したビデオ『A Bridge Builder～エズラ・ヴォーゲルの生涯～』<sup>3</sup>です。

今日はわざわざご来場いただきまして、改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

田中：李先生、どうもありがとうございました。続きまして、今回のフォーラムに際しまして、ヴォーゲル先生ご夫人よりビデオメッセージを頂戴いたしております。ヴォーゲル先生在りし日の映像と共に15分程度映像をご覧いただきたいと思っております。

(愛知大学公式 Youtube チャンネルにてご覧いただけます)

<https://www.youtube.com/watch?v=e1GDJ80wfR0>



シャーロット・アイケルズ教授（ヴォーゲル夫人）のビデオメッセージ：

「エズラ・ヴォーゲルの蔵書が愛知大学にやってきた  
—シャーロット・アイケルズさんからのメッセージ」  
(英語版と日本語訳 本誌参照)

田中：それでは続きまして、ハーバード大学日米関係プログラム所長クリスティーナ・デイビス先生より今回の記念講演「エズラ・ヴォーゲル博士の回想—アジア研究の継承と発展—」というタイトルでご講演をお願いいたします。

### 記念講演

「エズラ・ヴォーゲル博士の回想—アジア研究の継承と発展—」 (本誌参照)

クリスティーナ・デイビス

(Christina Davis, ハーバード大学日米関係プログラム所長・ICCS 顧問)

<sup>3</sup> 国際交流基金『A Bridge Builder～エズラ・ヴォーゲルの生涯～』、2022年5月10日。

[https://www.youtube.com/watch?v=79\\_fXe3kB0](https://www.youtube.com/watch?v=79_fXe3kB0)

同英語版、The Japan Foundation, “A Bridge Builder: The Life of Ezra F. Vogel”,

<https://www.youtube.com/watch?v=u8WQDUOVM0&t=0s>